

# 6・29 養問研全国大会 里親分科会

## - なぜ里親不調になるのか？ / 施設と里親との連携とは -

6月28日～30日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第34回全国児童養護問題研究会全国大会が開催されます。NPO法人東京養育家庭の会は、全国児童養護問題研究会に協力し、第8分科会にて里親分科会を担当いたします。

午前の分科会は、里親家庭から養護施設等に措置変更された、いわゆる「里親不調」について、養育里親と施設職員の両方の立場から話し合います。

また、午後の分科会では、児童養護施設・乳児院と里親との連携について、話し合います。施設と里親との相互理解を深め、子どものよりよい幸せのために、施設と里親がどのように連携しあえるのか、道を探りたいと考えます。お忙しいとは存じますが、ふるってご参加くださるようお願い申し上げます。

6月29日(水)

9:00～12:30 第8分科会 午前の部 「なぜ、里親不調になるのか？」  
パネラー 養育里親、養護施設職員

厚生労働省の平成15年2月調査「児童養護施設入所児童等調査結果の概要」によると、児童養護施設に入所している子ども30,416人のうち269人(0.9%)が里親家庭から入所しています。また、乳児院の入所児童3,023人のうち5人(0.2%)が里親家庭から入所しています。

また、里親家庭の委託児童2,454人のうち、他の里親家庭へ措置変更になる子どもは78人(3.2%)います。

里親家庭から児童養護施設、乳児院に措置変更は、施設職員の間では「里親不調」と呼ばれ、マイナスのイメージでとらえられています。また、里親側も、ギリギリまで子どもと関わり、力尽きて施設に「返した」と敗北感・無力感に苛まされ、里親を辞める方もいます。このような、「里親不調」の実態については、まったくいいほど語られることはなく、単なる里親のエゴとしての印象のみが強調されるくらいがありました。この分科会では、あえて「里親不調」を取り上げ、その実態について、議論をしたいと考えます。

実際に「里親不調」を経験した里親、「里親不調」の子どもにかかわった施設職員などの話を伺い、子どもの養育、里親支援のあり方などについて話し合いたいと思います。

12:30～13:30 昼食

13:30～17:00 第8分科会 午後の部 「施設と里親の連携とは」  
パネラー 養育里親、養護施設職員

平成15年8月から9月にかけて、「児童福祉施設による里親支援に関する調査」と「里親支援を実施している児童福祉施設に対する訪問調査」が行われ、「児童福祉施設による里親支援のあり方の調査研究事業報告書」としてまとめられました。また、本年度は、里親と児童福祉施設のパートナーシップを図るための委員会の設置が予定され、里親と児童福祉施設の合同研修のあり方など、具体的な検討がなされる予定です。

会場 国立オリンピック青少年総合センター内 センター棟 最寄駅：小田急線参宮橋駅  
東京都渋谷区代々木神園町3-1 03-3467-7797

日時 2005年6月28日(火)13時～30日(木)12時  
里親分科会 6月29日(水)9時～17時

会費 1日参加 一般4,000円、学生2,000円  
3日参加 一般12,000円、学生6,000円

問合せ 養問研第34回全国大会現地実行委員会事務局 TEL 0424-82-2578  
〒182-0035 調布市上石原2-17-7 二葉学園内 担当 宮城、酒井、大友  
里親分科会の問合せ先 東京養育家庭の会事務局 080-3127-9478